

CLC からしだね書店便り

2026 January

no.61

1

* 今月のご案内 *

- ① 新連載「焚き火牧師とノスタルジック・パラドックス・パレス」
第一回 文：大頭真一
- ② いのちのことは社 オリーブス おすすめ情報
- ③ 読書感想本 『「信じてても苦しい」が終わるとき』
- ④ いのちのことは社の「多額の不適切な会計処理の報告とお詫び」の報を受けて… 店長 坂岡 恵

CLC からしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。ドリンクを片手に、本をお楽しみください。
- ⑤ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑥ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLC
INTERNATIONAL

CLC からしだね書店 & カフェ トライアングル
営業時間 11:00-17:00
定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）
毎月第3木曜日は書店のみ営業

そのとき、ぼくはノスタルジック・パラドックス・パレスで、クニハルさんにヘアカットをしてもらっていた。といっても、ノスタルジック・パラドックス・パレス（NPP）は、理髪店ではない。引退した理髪店の親方であるクニハルさんが、家族と、他には気に入った人だけをカットしてくれる、自宅の中の専用のスペース、それをぼくが勝手に、NPPと呼んでいるのだ。

ノスタルジックは、この家の付まいが昭和そのものであることによる。それにクニハルさんの髪型もまた、きつぱりと切り立った角刈りで、かつての菅原文太や高倉健をほうふつとさせるものがあるのだ。パラドックスはもつと説明を要する。クニハルさんはクリスチャンではないが、キリスト教信仰の真髄に迫っている。教会へは行かないが、聖書は手に取る。愛の人にして、厳しき批判者。そんなクニハルさんがどっしりと構えているパレス。宮殿だ。

「ところで、先生。」とハサミをチヨキチヨキ言わせな

ントの5章を駆使して、牧師であるぼくをたじたとさせるのだから。

このままでは、牧師のコケンにかかわる。そう思ったぼくは知ったかぶりをする。「そうですね。プロテストントの正統主義神学においては、義認には行いは必要ないが、聖化には不可欠だと言う説明をしました。」けれども、クニハルさんはごまかされない。「あたしが知りたいのは、パウロは義認と行いとを分離させていないように見える、だとするなら、パウロが戦った相手はだれだったのか、そこなんです。」ぼくは、いよいよ覚悟を決めた。クニハルさんには、ごまかしはきかない。ぼくのもてる力を総動員して、クニハルさんといっしょにパウロに取り組むしかない、と。

四十日後、ぼくはまたノスタルジック・パラドックス・パレスにやってきた。ヘアカットは四十日おきに、これは大頭家の家訓だ。その間、ぼくがクニハルさん対策に

山口希生著「ユダヤ人も異邦人もなく
パウロ研究の新潮流」へのオマージュとして、

文 大頭真一



新連載 「焚き火牧師とノスタルジック・パレス」 第一回

がら、クニハルさんが言う。「先生方のおっしゃる信仰義認は、どうにも心に落ちないんです。確かに人は誰も行いによって救われるほどの良い行いをする事はできません。でも、だからといって、キリスト者はどんな生き方をしても救いから落ちる事はないなんて、とうてい思えねえん。」ぼくはきょつとした。これこそが20世紀のプロテストントが直面した最大の大課題だったからだ。

「うん、確かにパウロは…」とぼくが言うのを待たずに、クニハルさんは切り込む。「パウロは、律法を聞くものが神の前で正しいとされるのではなく、これを行うものが義とされるからです、とか、私たちは皆、キリストの裁きの座に出てすべてが明らかにされ、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行った仕業に応じて、報いを受けなければならぬからです、などと言っているじゃありませんか。」確かに、ここはパラドックス・パレス、未信者のクニハルさんがローマ書の2章や第二コリ

忙しくしていたこととお察しのとおりだ。」ぼくは礼拝では福音書しか説教しません。」どこから切り出したらいいかわからないときは、とにかく切り出してみることだ。」あと、律法と。」クニハルさんは驚かない。「そのようですね。」と穏やかに続きを待つ。「それには理由があるんです。」とぼくは当たり前のごとを言ってしまった。ばつがわるかったが、気を取り直して続ける。苦勞人のクニハルさんは、ブシのナサケで、見逃してくれた。「その理由とは」「ここが肝心なところだ。とても緊張する。」パウロ理解の枠組みが大きく変化していて、ぼくもまだ着地点を探しているからなんです。」チヨキチヨキ、チヨキチヨキ。しばらくチヨキチヨキして、「ほう」とクニハルさん。鏡に映るその目に愉快そうな光がやとっている。「着地点というのは、先生自身のパウロ解釈が固まってないということですか？それとも、新しい枠組みに慣れていない会衆をおもんばかつてのことですか？」いやいや、いつもながら、この人にはかなわない。「後者はです。」

大きなぬいぐるみ ひつじのハグちゃん

お孫さんや
お子様へのプレゼントに
便利なギフトバッグ付き

子どもに近いサイズなのでいっしょに
寝たり、遊んだり…

ぎゅっと抱きしめたいくなるハグちゃん!

80cmも
あるよ!
こんなに大きい
のにリーズ
ナブル!



51020 ¥2,999 税込 ■God Bless You しゅくふくがありますようにのタグ付き
■サイズ/タテ80×ヨコ31×奥行22cm ■材質/ポリエステル ■中国製

おいのりひつじのたっくん

ポーズが作れて自立します!
触り心地も抜群!



ボクは
片足だちや
お祈りポーズも
できるよ!

樹脂製の骨組みで
跳び回ることもなく、
小さなお子様でも
安心して遊べます。

500149 ¥2,999 税込

■God Bless You / しゅくふくがありますようにのタグ付き ■サイズ/タテ
25×ヨコ13 (腕を伸ばすと25cm) ×奥行7.5cm ■材質/ポリエステル、
POM樹脂 ■対象年齢6歳〜 ■中国製

お祈りしーちゃん

大人気

目を閉じて
いる表情が
かわいらしい
ぬいぐるみ!



両手は簡単にくっつくマグネットを
使用しています。

50877 ¥1,760 税込

■God Bless You / しゅくふくがありますようにのタグ付き
■サイズ/タテ17.5×ヨコ12×奥行12cm ■材質/ポリエステル
■両手にマグネットが入っているので両手をあわせてお祈りポーズができます
■中国製

新年におすすめ商品のご紹介!

切り取ってPOPとしてもご使用いただけます

2WAY ショルダーバッグ&リュック

1月末
入荷予定

ショルダーバッグがリュックに早変わり! お出かけ先で荷物が増えても
安心便利です。大型聖書も入るので礼拝に行くのにもピッタリ!



場面で
運べる2WAY
バッグ

Change!



Hebrews 13:8
JESUS
CHRIST
is the same
yesterday and today
and forever.
<ロゴ拡大>

Jesus
Loves Me
のタグ付き



簡単につけられます!

<本革製タグ>

500322 ¥2,300 税込 ■ヘブル13:8 (英語)、タグ: Jesus Loves me
■サイズ/ショルダーバッグ時: タテ21×ヨコ33.5×奥行10.5mm、
リュック時: タテ39.5×ヨコ25.5×奥行11.5cm
■材質/ポリエステル ■耐荷重10kg ■中国製

木製万年カレンダー 最後の晩餐

2月中旬
入荷予定

卓上に置いて、毎日使えるカレンダー。

温かみのある木製ブロックの万年カレンダーで、新生活をスタートしよう!



ゆるカワ
「最後の晩餐」
のイラスト

3.5cm

3.5cm

500321 ¥1,250 税込 ■ヘブル13:8 (英語) ■サイズ/タテ6.3×ヨコ14×奥行き4.9cm
(キューブサイズ: 3.5cm角) ■材質/木 ■日本製 ■イラスト/M.K.

信仰を育むアニメ聖書物語 スーパーブックシリーズ

スーパーブックにまた会える!

Superbook 大好評販売中!!



コンプリートセット
ご購入の方にもれなく

特製サコッシュプレゼント!

商品と一緒にお届けになります。
※先着100名様限定

数量限定 旧約・新約
バイブル
スタディブック付き!!



画像はイメージです

卒園や入学祝いにも! DVD スーパーブック シーズン1~5
コンプリートセット

49160 ¥48,000 税込



スーパーブック
シーズン1
(1~7巻)
全13話セット

49161 ¥9,800 税込



スーパーブック
シーズン2
(1~7巻)
全13話セット

49162 ¥9,800 税込



スーパーブック
シーズン3
(1~7巻)
全13話セット

49163 ¥9,800 税込



スーパーブック
シーズン4
(1~7巻)
全13話セット

49164 ¥9,800 税込



スーパーブック
シーズン5
(1~4巻)
全16話セット

49165 ¥9,800 税込

●プレゼントにおすすめ

おじいちゃん、おばあちゃんから
お孫さんへのプレゼントにもおすすめです。

●上映権付き

幼稚園・保育園・教会などで無料の上映ができます。

●ディスカッションガイド付き

アニメを見るだけでなくさらに深く学ぶことが
できます。教会学校やバイブルスタディにも
ご利用いただけます!

破損交換も可能です
1枚 2,000円 (税込)

スーパーブック

<https://www.wlpm.or.jp/superbook/>

読書感想本

「信仰」から解放され、自分を超えていくために

『信じてても苦しい』が終わるとき

中村 穰 著 (いのちのことは社) 1,600円+税



信仰の世界は世俗的な価値観とは相容れないもの(もしくはそれを超えたもの)という漠然とした思い込みを持っている人は多いかもしれません。しかし信仰者たちの姿をじっくり観察してみると、そこには「自己実現」や「自立」といった、現代的で資本主義的な価値観が入り込んでいることが意外に多いようです。例えば、私たちがイメージする「自立した大人」の姿は、「自分の人生を主体的に形成してきた人」というものでしょう。具体的には、自分の意志に基づいたキャリアの展開を持ち、それに向かって努力して夢をかなえ、「自分は〇〇をしています」と胸を張って他人に言える人の姿です。同様に、信仰を持つことに對しても「自由意思に基づいた主体的な選択」とか「努力に基づく達成」をよしとする価値観が、知らず知らず混入していることがあります。宗教や信仰が人を苦しめるようになるのは、そのような時においてです。

4年前に出版された『信じてても苦しい人へ』の著者である中村穰さんの新刊のタイトルは、『信じてても苦しい』が終わるとき

き』です。4年前の著書で中村さんは、「苦しみ」の『解決』を求めることでは苦しみは終わらない。だから安易に『答え』を得ようとするな。むしろ苦しみに留まり、それを見つめよ」というメッセージを伝えていました。本書でもその基本的な姿勢は変わらず、そのうえで「苦しみに留まること」の具体的なあり様を、十字架の聖ヨハネ(16世紀スペインの修道士)の思想を通して解説しています。十字架の聖ヨハネの説く信仰は5つの段階に分かれています。が、まず気を付けなければならないのは、それが或る信仰的な地点やレベルに達するためのプログラムやマニュアルではないということです。この点に関して、中村さんは次のように説明しています。

聖ヨハネの信仰の段階のもう一つの特徴が、ここにあります。それは、これらの段階を一筋と捉えないことです。ここまでの歩みはループであると言います。先に進む時もあり、また戻る時もあるということです。それは、先の段階に行く決心が

できないということではなく、もっと深くいろいろな段階を通して神さまと交わりを体験するということです。(39頁)

聖ヨハネの説く信仰は、結果ではなくプロセスであり、ゴールではなく道であるということです。それゆえ、信仰はどこかの地点に至ることで完成したり、達成できるような静的なものではありません(中村さんは静的な信仰のあり様と対比して「揺れ動く私」という言葉で聖ヨハネの信仰を表現しています)。したがって、信仰において「もうこれで大丈夫」ということはありえません。どの地点を歩んでいても、私たちは途上にあり、未完成で、飢え渴きを持っています。

道元の「修証一等」(修行と悟りは一つである)を思わせるこの信仰理解は、「目的のない過程」を想像できない私たち現代人には理解しがたいものです。私たちは、「それで何を得られるのか」とか「これにはどんな意味があるのか」ということを、ほとんど反射的に考えてしまいます。それほどまでに、「達成や自己実現」というエートスが私たちに染み付いているのです。

しかし、「信じても苦しい」を終わらせるために克服すべきなのは、まさにこのような価値観にほかなりません。というのも、「信じても苦しい」という発想の背景には、「信じたら解決する

のではなく、反対に特権として他者との差を際立たせたり、自分の正しさを証明するものとして排他的に作用します。

ここで言う「確かさ」は、人間側の価値観です。自分の理想の神さま像で凝り固めた「確かさ」は、神さまの思いを受け取れなくさせる壁になります。この壁があることで、教会の中で人と衝突し、分断が起こり、相手を傷つけ、自分も傷つくことが起こるのです。(119頁)

所有によって安心したいという資本主義的な発想は、実は信仰の世界にもありふれています。教理や信条という客観的な形に整えることで信仰を所有しようとすることは、そのような欲望の一つの表れといえるでしょう。しかし信仰を客観化し、「正しさの独占」を行うことは、その信仰に同意しない人々を見下し、裁くことにつながりかねません。

このような排他的な信仰理解から解放されるためには、不確かさや答えのなさ、苦悩の中に留まることを肯定できるようにならなければなりません。中村さんによると、神はまさにそのような私たちを、信仰の解決を得る「手前」で、「奥底」から肯定してくれる存在です(21・22頁)。そのような肯定に支えられた私たちは、もはや信仰によって自分を守るための壁を作る

はずだ」という思い込みが存在するからです。これはまさにマニユアル的发想、問題解決志向、目的中心主義の考え方です。このような常識的な発想を逆転させるために、中村さんは以下のような逆説的な表現を繰り返します。

自分の暗闇を暗闇としておくのは、大切なことなのです。でも、私たちは暗闇があると、光を照らしたくなります。暗闇という弱さや葛藤を持つということは、信仰がしっかりしていないからだと思ひ込んでいるからです。(中略)ここに、現代に生きる私たちの苦しむポイントがあるように感じています。神の暗夜の前では、自分の弱さ、苦悩、信仰の揺らぎ、劣等感、挫折―すべてが神さまの光が輝くための暗闇となるはずです。解決のない状態、この空白(空虚感)が信仰なわけです。(94・95頁)

さらに重要なのは、信仰を達成したり獲得したりするものとする発想が、信仰者自身を苦しめるだけでなく、信仰者と周囲の人々の間に軋轢を生むということです。というのも、達成や獲得という発想は「所有」という觀念に容易に結びつくからです。達成や獲得によって「所有された信仰」は、他者と共有される

必要がなくなります。そして、違いがあろうとも、解決されない弱さを抱えた者同士として認め合うために、自分の枠を超えて他者へと向かっていくことができるようになります。

自分のアイデンティティを脅かすものとしてしか他者を見ることができないような世界で、私たちは必死に壁作りばかりしています。そしてそれはキリスト教界も同じです。自分が否定されるのではないか、壊されるのではないかという恐怖は根源的で強烈です。しかし、その恐れに負けて自分の正しさを証明しようと頑張るだけでは、内輪でしか通用しない正しさを確認することはできません。自分とは違う立場の人を理解しにくいような広がりを持つことはできません。むしろさらなる対立と不安を招くだけです。「弱さでつながるためには、自分の立場を降りる必要があるのです」(177頁)。

恐怖が支配するこの世界に、信仰者が何か良いものをもたらすことができるかといえば、それは、自分を必死に守らなくても外の世界へと出ていくことができるということを、身をもって示すことではないでしょうか。そのために、中村さんは「信じても苦しい」自分へのこだわりを捨てて、困難を抱えたまま、「弱さでつながりましょう」と呼びかけます。そうして他者へと向かっていく信仰は、自分を解放してくれる信仰でもあるのです。

いのちのことは社の「多額の不適切な会計処理の報告とお詫び」の報を受けて……



店長 坂岡 恵

昨年末、びっくりするような残念なニュースが、書店に飛び込んできました。

いのちのことは社の元社員が業務上の立場を利用して、教会等から受け取った売上金と献金の一部を、長年にわたって不適切に会計処理し、それが数千万円に及んで累積されていたのです。現在、「多額の不適切な会計処理の報告とお詫び」という文書がいのちのことは社ホームページに公開されています。文書の内容からすると、やはり「横領」ではないかと推測されます。現在、刑事、民事両面で法的措置を実施する方向で対応しているとのこと、詳細については、まだ明らかにされていません。

いのちのことは社は、からしだね書店がオープンする時、書店経営の基本を教えて

いただき、またいのちのことは社直営店の閉店に伴って不要になった書棚等の備品をいただいたりした経緯があり、お世話になった社員さん、親しくさせていただいている社員さんもあります。そして、個人的にはその方々のお顔を思い浮かべてたいへん心配しています。

起こってしまったことについては、決して許されることはありませんし、たとえ一社員が単独で行った不正であったとしても、それを長年にわたって気づかなかった、あるいは気づかない体制を許してしまっただけとしての責任は重いと思います。

ただ、このニュースを初めて耳にしたときに、「そういうこともあるだろうな」という冷めた思いもありました。それはいのちのことは社だから、ということではなく、私自身にも起こり得ることだという意味で、です。

教会も、宣教団体も、キリスト教メディアも、私たちのようなキリスト教信仰を基盤にした社会福祉事業者も、弱い人間の集まりであることにかわりありません。一見うまくいっているように見えるときでも、困難に見えるときでも、つまりいつでもど

んな時でも、不正を行ってしまう誘惑とは隣り合わせにあると、自分自身を振り返って思います。

クリスチャンの集まりだからそんなことは起こるはずはない、という認識自体が、逆にクリスチャンが陥りやすい驕り高ぶりとなり、それがキリスト教界の中の不正や様々な「罪」の温床になってしまっているのではないのでしょうか。

遡れば、すでにイエスさまの十二弟子のひとりで会計係だったユダが、金銭の誘惑に負け、その結果が、イエスさまを売るという恐ろしい出来事につながっていったことからわかるように。

ユダが、なぜイエスさまや他の弟子から信頼して任されていたお金を横領してしまったのか、横領したお金を何に使ったのか、聖書の中には書かれていないのでわかりません。全く個人的なことに使ったのか、あるいは預かったお金を自分の裁量で増やそうとして失敗したのか、もつと他の理由からなのか。私は、ユダの不正会計を許してしまったイエスさまや他の弟子達にだって、この不正会計に関して負うべき責任が

あったと思います。

さて、社会福祉法人の場合は、社会福祉会計基準というルールがあり、そのルールに沿った会計処理を行います。当然のことながら、お金の管理は複数の目を通して行うことが決まっており、からしだねの場合は、それにプラスしてミスや会計処理上の間違いが起こらないように年間を通じて税理士法人のチェックを受けています。年度末の法人監査、会計報告の公開と管轄自治体（京都市）への報告、定期的な京都市監査や運営指導の際のチェックもあります。

こうして幾重にもチェックを受ける仕組み自体が、組織を運営するにあたって、人は皆、危うい存在であり、能力的にも倫理的にも間違いを犯すのが人間であるという前提に立っているからで、それは極めて正しい事だと思っています。

ですから、いのちのことは社の「不適切な会計処理」に関しても、「クリスチャンの集まりだから起こるはずがない」「善良で能力的に秀でた経験豊かなクリスチャンならそんなことをするはずがない」「信仰があれば不正などしない」「不正が起きるのは墮落

した団体。正しいキリスト教団体なら、不正など起きるはずがない」という、根拠のない甘えが、根底にあったからではないかと、私は推測しています。そしてそれは、クリスチャンやキリスト教会全体を覆っている甘えでもあり、私自身の中にもある甘えだと思っています。ですが、この甘えは、物事の本質を見えなくします。

うちの法人が会計を見ていただいている税理士法人の担当者は、「1円でも合わないときは、合わないかったという仕訳処理をしてください」と口を酸っぱくしておっしゃいます。「足りないから、自分の財布から1円足しておこう」とあるいは「多すぎるからこの1円は足りなかったときの穴埋め用財布に入れておこう」とみたいなことは絶対にしてはいけない、ということ。店の売り上げなどで合わないことは、日常的に起こります。書店でおつりを間違えたり、買物をしたときに計算を間違えたり、落としてしまったり、原因は様々ですが、それは起こり得ることです。ですが「たかが1円」と思っ、つじつまを合わせるような不適切な会計処理を「善意」でやってしまうこと

の延長上に、大きな不正に発展する落とし穴がある、ということなのだと思います。それにしても、数千万円というお金があれば、「百万人の福音」が隔月になったり、デポーション誌「マナ」が休刊になる事態を避ける手立てが見つかったかもしれないと思うと、たいへん残念です。

いのちのことは社には、あせる気持ちをおさえて冷静に、ひとつひとつ丁寧に段階を踏んで、このたびの不正について明らかにしていただきたいと思っています。そして、その反省に立って今後、社会の中に存在する一企業として、また文書伝道を使命とする宣教団体として、果たすべきことを示し、行動していただきたいと願っています。そういう過程をきちんと踏んでくださるであろうという多くの信頼が裏切られることがないように、私は祈りたいと思います。そして何より一番に、弱さを抱えた私自身を悲しみながら「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と祈りたいと思います。

「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい」

（ヨハネによる福音書8章7節）

古書献本をお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担
いただけるとありがたいです。(受付できない
ものもありますので事前にお知らせください。)



百科事典・辞書・開封済みのCD・
DVD・月刊誌・週刊誌、
自分史・教会の記念誌などは
受け付けておりません

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

【本の送り先】

住所: 〒607-8216 京都市山科区勸修寺東出町75 からしだね館
宛先: CLC からしだね書店 献本係 電話: 075-574-1001 FAX: 075-574-0025
Mail: clc @ karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、
献本者の簡単なプロフィールをお願いします。



【献本感謝】

株式会社ヨベル安田正人様、平林いづ子
様、北村栄一様、中村信夫様、丹野敏弘様、
(順不同)

12月の古書の収益は44,515円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働
く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店便
りにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知
らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集を終えて...

◆新年あけまして、おめでとうございます。何かと厳しいニュースばかりの年末年始でしたが、私のま
わりで起きる小さな喜びや希望を拾い集め、分け合いながら、1年間、祈りの中に日々を過ごしたいと願っ
ています。◆「焚き火牧師とノスタルジック・パラドックス・パレス」の連載が始まりました。また感
想などお寄せください。◆今年一年も、皆様の上に神様の祝福が豊かでありますように。どうぞよろし
くお願いいたします。

【店長】

JOCs日本キリスト教海外医療協力会
バングラデシュ・岩本直美ワーカー
活動報告会

「小さいものからくる平和」のお知らせ

とき: 2026年3月7日(土) 14:00 ~ 16:00
場所: からしだね館 1階カフェ

内容: 1993年以来バングラデシュで活動し、
2022年からJOYJOYプロジェクトでプロ
ジェクト・ディレクターを務めてきた岩本直美さん
が、第8期の任期を終えて帰国されます。岩本さん

は、JOYJOYプロジェクトで、知的障がいのある子どもたちに療育サービスを届け、孤立しがちな母
親や父親がつながり、支え合える場を育ててこられました。からしだねでは、2度目の報告会になりま
す。世界に分断と対立が起きている今、岩本さんのお話に耳を傾け「もっとも小さいもの」の存在によっ
て、神様が、世界に、そして私達一人ひとりに何を語りかけておられるのか、耳を傾けたいと思います。

お申込みは、メール clc@karashidane.or.jp 電話 (075-574-2800) 坂岡 恵宛
お申込み締め切りは2月末日

編集・発行: 社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216 京都市山科区勸修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp



CLCからしだね書店便りの
バックナンバーはこちらから